

# 最近の道内経済動向

○道内景気は、緩やかに持ち直している。  
 ○先行きは持ち直し基調が続くとみられるものの、物価高の影響が続くことで持ち直しのテンポは緩やかなまま推移すると予想している。

(注) 基調判断は2023. 10. 23時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(8~9月実績が中心)。

## ●個人消費は持ち直し基調にある

8月の供給側の統計(商業動態統計など)をみると、百貨店・スーパー(前年比+7.4%)やコンビニエンスストア(同+13.8%)の販売額は増加が続いているほか、新車販売台数(軽含む乗用車、同+11.4%)も2ヵ月ぶりに増加した。需要側の統計では、家計の消費支出額(8月の家計調査を基に算定)が同▲0.8%と3ヵ月ぶりに減少となった。総じて個人消費は物価上昇が足かせとなりつつも、持ち直し基調にあるとみている。

## ●観光は持ち直し基調にある

道内への外国人入国者数(9月)は9.4万人と、新千歳空港の国際線定期便運航の再開が本格化に向かう下、緩やかながら持ち直している。8月の来道者数(国内交通機関経由)は、145.5万人(前年比+20.7%)と2021年11月以降、前年比で増加が続いているものの、水準ではコロナ前(19年8月比▲5.0%)をやや下回った。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

## ●住宅建築は減少傾向にある、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は緩やかに持ち直している

新設住宅着工戸数(8月)は、前年比▲16.1%と2ヵ月連続で減少となった。持家(同▲9.1%)、貸家(同▲13.7%)、分譲住宅(同▲35.0%)が揃って減少した。日本銀行札幌支店が10月2日に公表した企業短期経済観測調査(北海道)の設備投資計画[ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額(除く土地投資額)]では、23年度の全産業は前年比+2.0%、製造業は同+23.8%、非製造業は同▲7.3%となった。公共工事出来高(8月)は1,752.2億円(前年比+11.6%)と8ヵ月連続で増加した。公共工事請負金額(9月)は、535.1億円(同+3.8%)と2ヵ月連続で増加した。

## ●生産は悪化の兆しがみられる

鉱工業生産(8月)は、前月比+1.2%と2ヵ月ぶりの上昇となった。金属製品(同+47.3%)などが上昇した一方、鉄鋼業(同▲17.0%)などが低下した。8月の生産は、一部業種における大型案件の受注や生産の集中などが全体を押し上げており、一過性の上昇とみられる。

## ●輸出は悪化傾向にある

9月の通関輸出額(速報値)は、279.8億円(前年比▲48.3%)と3ヵ月連続で減少した。品目別では、「鉄鋼」(同+33.9%)や「自動車の部分品」(同+21.1%)が増加した一方、「魚介類・同調製品」(同▲55.9%)は中国向けが全減となったことを受けて大幅減少となった。さらに9月は、前月に続き「再輸出品」(同▲96.9%、同▲195.8億円)の減少も全体を押し下げた。

## ●雇用情勢は緩やかに持ち直している

8月の有効求人倍率(パート含む常用)は、1.01倍(前年差▲0.11ポイント)となった。雇用情勢は総じてみれば緩やかに持ち直している。

### 道内設備投資計画について

日本銀行札幌支店『短観』 (前年比・%)

	2022年度	2023年度 (計画)
全産業	11.3	2.0
製造業	23.8	23.8
非製造業	6.7	▲7.3

北海道財務局『法人企業景気予測調査』

(前年比・%)

	2022年度	2023年度 (計画)
全産業	26.0	▲11.4
製造業	34.7	13.9
非製造業	24.0	▲17.9

(注1) 短観の調査対象は「電気・ガス」を除く資本金2千万円以上の道内企業。道外への投資、ソフトウェア・研究開発投資を含み、土地投資額を除く。

(注2) 法人企業景気予測調査の対象は、資本金1千万円以上(「電気・ガス・水道業」、「金融、保険業」は資本金1億円以上)の道内法人。道外への投資、ソフトウェア投資を含み、土地投資額を除く。

(出所) ①日本銀行札幌支店「企業短期経済観測調査(23年9月調査)」  
 ②北海道財務局「法人企業景気予測調査(23年7-9月期)」